

## 平成24年度 第1回 米子市図書館協議会・会議録（概要）

○日 時 平成24年11月28日 水曜日 午後2時から午後3時30分

○場 所 米子市役所第2庁舎 第2会議室（2階）

○出席者 委 員

大原 俊二、渡邊 眞子、勝部 将之、根平 仁史、灘尾 亜紀子

事務局

（米子市立図書館）政木館長、伊藤副館長

（米子市教育委員会）北尾教育長、永見生涯学習課長、幡井課長補佐、横木主幹

○欠席者 委 員

本池 弘昭、藤原 厚子、原 豊二

○傍聴者 無し

○報道関係 無し

### 【協議会の概要】

○開 会

事務局より開会

北尾教育長あいさつ

みなさんこんにちは。今日は月末、陽が出てもなかなか暖かにならない寒い日で、本当に申し訳ないですけども、第二庁舎全館暖房まだ入っておりませんので、足元がスースーするかもしれませんがご了承ください。日ごろは図書館に対して本当にご支援ご協力を賜っておりますことを感謝申し上げます。今日は第一回ということで昨年度、今年度の事業、あるいは決算、予算についても説明させていただきますけども、資料のあとの方にありますように、今、新しい図書館の工事が順調に進んでおります。私も時々本庁に行って、上から眺めさせてもらっておりますけども、見る度に出来上がっていく様子が見えて楽しみなんですけども、この計画段階からいろいろご意見頂戴して進めてまいったところでございますけども、実際に工事に入って休館し、二つ大きな心配をしておりました。一つは、あれだけ膨大な図書をきちんと移動したり管理したりできるのだろうか。9万冊残して、10万冊を運び出して、西部広域の施設2箇所に置かせていただいているんですけども、想像以上に膨大な量になっております。ダンボールに詰めてものすごい量です。仮設の図書館への移動、そこのオープンということで、図書館の職員の方がくたびれを出されないか心配しておりましたけど、案の定、体調を崩された方もあって本当に申し訳なく思っています。もう一つ心配というのが、仮設の図書館ということで、はたして市民の方にどれだけ利用していただけるのかなということを思っておりましたけども、本当に狭い旧庁舎の一室でありますけども、約4万冊並べさせてもらって、こっちの予想以上にたくさん来ていただき、利用していただいている。だいたい60%前後の貸出数が、現在7月以降出ております。前年比ですけども。図書館を必要とくださっている、図書館を愛してくださっている方が本当にたくさんいらっしゃるなということを改めて感じておりますし、あれだけ狭い中で貸出数が出るということは、聞いてみますと、新しい本を中心に並べているということもあるようです。それから狭い場所

にコンパクトに並んでいるために、広い従来の図書館と違って密度が大きいために思わぬ本との出会いがそこで生まれたりというようなことがあるのではないかという話もしております。そのへんもまた新たな図書館オープンにも生かしていかないといけないと思っているところですが、また、6、7、8あたりでそのへんのこともつめさせていただきます。また来年の夏のオープンに向けて、またご意見、ご提言等をいただけたらと思いますので、本日はどうかよろしくお願い致します。

#### 大原会長

みなさん、こんにちは。今日はちょっと人数が少なくて寂しいですけど、お忙しい中、ご苦勞様でした。今日来る前に図書館に寄ってみますと、今、土台をコンクリートうっておりました。これまでいろいろこの委員会でも図書館につきまして、申し上げてまいりましたけども、新築というところまではいかなかったですけども、増改築ということで今順調に進行している姿を見まして、本当に嬉しく思っておるところです。今日は増改築を含めましていろいろ図書館運営全般につきまして、ご意見を承りたいと思います。宜しくお願いします。

#### 事務局

本日の会議は終了を、午後4時と予定しておりますのでご協力をお願いいたします。

教育長は、諸用のため退席させていただきます。

また、本日は藤原委員様、本池委員様、原委員様が諸用のためご欠席されますのでご報告させていただきます。

それでは議事に入らせていただきます。ここからの進行は会長をお願いいたします。

#### 大原会長

それでは議事へ入らせていただきます。議事1、平成23年度事業報告及び決算について説明をお願いします。

#### 政本館長

お手元の資料を開いていただきまして、1ページ、2ページ、3ページ、これが平成23年度の実施事業と決算の明細でございます。事業等については特別なものについてだけお話をさせていただきたいと思っております。通常やっております図書館の事業をずっと上から書いておりますが、特に特許相談とか企業融資、これについては一昨年に比べると人数も減っているところもあるのですが、好評といいますか、需要も多く、今後も続けていかなければならない事業だという風に考えています。あとは図書館祭りを毎年はやっているのですが、去年は、23年度は、参加の人数も多く、持ち帰りいただいた本も1万7千冊を超えるということで多かったです。あと、展示の方ですけども、美術館との連携事業のあべあけみさんの人形展の関連資料展示、それから特に人が多かったのはガイナレ鳥取の関連グッズの展示、それから、中国からの引き上げの漫画展というのがありまして、9月の23～25日だったのですが、常に人でにぎわっておりました。その下に、中海圏域の関連資料展示というものを11月1日から行ったのですが、これは3月31日までずっとやっておりました。中海市長会の方から助成をいただきまして、新しい書架を買って、中海に関連する本を並べたところ、これも非常に貸出も多くてにぎわっていたというふう

に思っております。次に2ページです。2ページは23年度の図書館の費用の決算の明細書です。最終予算額が94,938,000円に対して、トータルで89,586,028円使用したということです。その中でふようが530万円ほどでているのですが、その大きなものが事業団の委託料です。その事業団の委託料の明細が右の方にあります。3ページです。3ページですが、事業団の決算の明細で一番多く差が出たのが給与手当ということで、一つ訂正していただきたいのですが、職員4人分と書いてあるのですが、予算は4人分で考えていたけれども、計上していたけれども、決算の時には3人分でしたということです。平成23年度の直前に職員一人退職をされて、その補充が臨時職員を補充したということで、こういう形になっております。臨時職員や嘱託の賃金については、嘱託4人、臨時4人分ということです。それで、そのうち余った委託料の内、今、代替図書館で使っておりますブックポストや、ブックトラック、それから一番下のところに委託費があるのですが、展示書架を購入させていただきました。備品購入費のところに展示書架があると思うのですが、それをブックトラックというふうに訂正していただけますでしょうか。展示書架が二重に一番下の委託費のところにもありますので。以上で事業団の方の委託料が5,159,434円余ったということです。簡単ですが、以上で説明を終わります。

大原会長

そうしますと、ただいまのご説明にありました23年度の事業及び決算について質問はございませんでしょうか？

渡辺委員

1ページからよろしいでしょうか。23年度の実施事業等をざっと拝見しますと、図書館内で行われていますいろんなイベントの中で、ガイナレの展示のコーナーとかそういうのが賑わったというのは良いことだとは思いますが、昨年というか今回、県立図書館さんと一緒になってやりました子供の本の講座のような、清水先生をお迎えしてのような、図書館で学べるという講座は定期的開催するような方向を今後とっていただきたいなというふうに願っています。お願いします。展示がずっと続いていて資料展だなんだって展示を見るのもいいですけど、そこに行って何か学べるという講座を、子供の本の講座だけではなくて、学べるような講座、講演会を今後希望します。以上です。

大原会長

はい、それではいいでしょうか。子供たちの学べる講座をもっとたくさんということがあります。

渡辺委員

希望は。

政木館長

来年とかはありましたっけね？

伊藤副館長

計画をしております。

渡辺委員

ありがとうございます。嬉しいです。

大原会長

他にご質問は？

予算決算ですけれども、2ページの資料の一番下の方に、最終決算額、これが図書館費だと考えてよろしいのでしょうか。

94,938,000円、これが図書館費であると、教育費の中のこれが図書館費ということですか。

政本館長

教育費の中の社会教育の中の図書館費ということでございます。

大原会長

これが市の予算である。その中の真ん中のところに事業団の委託料というのが47,983,000円、これが事業団等の委託、管理していしゃですね、いわゆる。

その明細が3ページであるということですね。

そうしますと、他になかったら次へ進みたいと思います。次は2の平成24年度事業計画及び平成24年度予算についてお願いしたいと思います。

政本館長

そうしますと、4ページ、5ページ、6ページが平成24年度の事業計画ということで、もう24年度も半分は終わってしまっております。これも例年の事業を考えておりますし、それから今、代替図書館で実施しておりますので、場所として部屋が限られているところは、例えば伯耆文化研究会さんなんかの社会科研究発表会等は図書館ではなくて、児童文化センターを利用したり、明道公民館で会をもたれたりしております。次のページ、6ページなのですが、お話し会、ほしのぎんかさんや、火曜の会さんに協力をいただいて実施しております。7月から仮設の代替図書館の一階に和室ができましたので、そこで実施しておりますが、最初の頃は人が少なかったのが、だんだん多くなってきて、楽しみにしてきておられるのだろうなというふうに感じております。あと、続きまして、7ページ、資料を読んで、平成24年度の図書館費の予算明細書ということで、今年度の図書予算額が、79,243,000円ということで、昨年度の予算額が94,314,000円ですので、この減った内容については次のところでお話させていただきたいと思います。一番下に書いてありますが、今、図書館美術館整備事業ということで、工事費として今年度分が6億5千万円ついております。関連しますので、8ページをお話させてください。図書資料費の推移ということで、22年度、23年度、24年度の予算をあげております。22年度は、毎年図書購入費は2千万円だったのですが、住民生活に光をそそぐ交付金をいただくことができて、これが834万円。図書購入費としてありました。それで、例年行っているのですが、新聞、雑誌の消耗品をたくさん買っていますので、そのところに図書購入費を当てて、実際に図書購入ができたのは27,835,231円ということです。そのうち、下の注意書きにも書いてあるのですが、5,975,462円というのは、23年度に繰り越しております。ただ、表にした時に分かりにくいですので、22年度のところに決算を書かせてもらっています。平成23年度は2千万円の図書購入費が毎年ついているのですが、100万円、一番下にですね、前田ひろこさん（ミスプリントあり。漢字訂正。）この方は米子出身の東京在住の方ですが、図書館の方に使ってくださいということで。この100万円を足して昨年は23年度の予算額は、最終的には図書購入費が2100万円。消耗品、新聞、雑誌を合わせますと22,372,000円ということで、決算が22,371,997円ということで3円ほど余らせた

ということです。先ほど7ページでも説明したのですが、24年度の予算につきましては例年2千万円ついている図書購入費が代替図書館ということもあり、それから、4月23日から6月30日まで完全閉館しましたので、そのこともあり、1500万円でやりなさいということで、今年度の予算は16,372,000円ということになっております。以上でございます。

大原会長

そうしますと、ただいまのご説明につきましてご質問は。

渡邊委員

24年度の予算が500万円減っているわけですよね、ざっと。小さくなったから減らすというのはおかしいと思うのですね。ぜひ、その減らした500万円は、新しくなりましたらいろいろなところに予算がいりますから、ぜひ翌年度、次の分の予算にプラスしてほしいと強く要望したいと思います。お願いします。

政木館長

えー、そういうふうに。

大原会長

24年度は先ほどの約2千万円に近い、一億に近い予算だったのが7900万円とどまった、これをぜひ予算をつけるということです。

大原会長

22年度、23年度の図書購入費は、今年度の1500万円というのはですね、代替であると、あるいは閉館の時期だったということでございましたけれども、やはりそういうことで減らすというのはどうかと。来年さらに考慮してですね、広くなるわけですから、図書はいくらあってもいい。

渡邊委員

取り戻してください。減らすのはおかしいですよ。

政木館長

予算をつけるようにまた努力をしたいと思います。

渡邊委員

絶対、この意見が出たということを伝えてください。それと、もう少しよろしいですか。閉館になっている間と、今大変お忙しいのは分かるのですが、良い機会だと思うので、ぜひその予算を減らされているということ自体おかしいですけど、このまま残しておいて、こういう機会にこそ図書館職員の皆さんがいろんなところに研修に行かれるべきだと思う。それを、良いものを持って帰ってきて、私たちに還元してくださって、より良い図書館になれば一番嬉しいわけですから、まだ時期が残っているならば、ぜひ予算どりをもう一回でもできることならして、どんどん社員研修をうけられるといいなと思います。

政木館長

今年は米子で全国学校図書館大会が開かれたのですが、それにも2名参加させていただきましたし、10月に行われた全国図書館大会、松江で開催されましたが、これも2名参加させていただきました。それから12月には、図書館大会の中四国ブロック大会があります。これにも1名行くように考えております。今後とも研修はかさねてまいりたいと思

っております。

**大原会長**

他にございませんか？

そうしますと、続きまして、3の代替図書館利用状況のご説明をお願いします。

**政本館長**

資料の9ページです。資料の6ということで、7月から開館しまして平成23年度と平成24年度の個人貸出冊数の比較表をつけております。その下には利用者数の比較です。現在の代替図書館というのが、ほぼ160ヘーベぐらいの面積です。今までの既存の図書館の一階の開架面積が約800ヘーベぐらいだったと思います。だいたい1/5の面積の図書館に引越したのですが、利用者数は7月、8月、9月とどんどんあがってきております。10月については、昨年は10日間ほど蔵書点検をやって休館しておりますので、単純比較はできない。75.1%というのを単純比較はできないと思うのですが、それにしても我々の想定よりもたくさんの市民に利用していただいて、たくさんの本の貸出があるというふうに考えています。ブラウジングコーナーも狭いですが、いつも人が座って、雑誌、新聞を広げておられる姿があります。以上でございます。

**大原会長**

月をおうごとに増えている。利用者は77.8%、ものすごいですね。

何かご質問はございませんか？そうしますと、次へ進みましょう。次は、図書館美術館整備事業について、お願いします。

**政本館長**

そういたしますと、資料が10ページ、11ページ。ここに今度できる図書館のレイアウト図の案を示しております。ここには書架、工事の方で入る書架も、備品として購入する家具類もこういう形で置いたらどうかというレイアウト案を示しています。この中で、書架については工事ですが、一階の正面玄関入って階段の奥側にありますブラウジングコーナー、こういうところの机とか椅子が備品で入ることになっています。事務室の部分や、バックヤードの部分なのですが、製本ミーティング室や倉庫などのロッカーとか机については、今あるものを使えるものはなるべく使うという考えで計画しております。次の11ページを御覧いただけますでしょうか。これが二階のレイアウト図です。少し説明が足りないのですが、今まで昔の大会議室という部屋がこの図書館の中央にあります。字が小さいのですが、多目的研修室、144名というふうに見えますと思います。一般的なこの多目的研修室の使い方は、机を並べて講演会をしたときには144名入る、こういう計画です。それで、右側に四角で囲んだこの部屋のレイアウト図が3例示してあります。右側の四角の一番上は、例えば、前だけは椅子にするのですけれども、後ろの方は全て椅子にした場合は、172名は入れますよ、と。非常に人気のある講師、先生が来られた場合には、こういう使い方もまずはできるのではないかと考えます。それから、その次の真ん中の図は、ここは間仕切りで多目的研修室が仕切れますので、前側の部屋の研修と後ろ側というか右側の部屋がそれぞれ99名と51名の部屋があって、講演会でもできますよ、と。こういう形ができるのではないかと考えます。それから、普段ここは学習室として今までは開放していましたが、こういうふうの間仕切りをすることによって、全ての部屋を開放するの

ではなくて、必要な部分だけ開放すれば、それだけ電気の消費も少ないでしょうし、エアコンについても効率的ではないかと考えています。一番下の場合は、こういう口の字形の会議をする場合には、こういうレイアウト案もありますということです。それと一番右側には研修室3と4のレイアウト案が示してあります。ここは一つの部屋で会議をした場合には、51人入れると思います。右側の例のように、研修室3と4でそれぞれ20人とか30人とか、こういうふうに仕切って使うこともできます。簡単ですけども、書いてあることについては、ご質問の中で答えたいと思います。

大原会長

何かご質問ございませんか？

渡邊委員

一階からしたほうがいいですか。

政木館長

そうですね。

渡邊委員

子供のコーナーなのですけど、お話コーナー、一番右手になりますね。このお話コーナーの真ん中にあるこのお花の形みたいなのは何ですか？

政木館長

これは前の図書館でも使っていた机と椅子の間みたいな・・・。

渡邊委員

今使っているぶんですか？

政木館長

はい、そうですね。

渡邊委員

ごめんなさい。20年以上も使って、さらにヨレヨレで・・・それを使うのですか？

政木館長

これについては、周りのレザーを全て張り替えて、天板も新しいのにして使いたいというふうに思っています。

渡邊委員

その方がお金がかかるのではないですか？どうなんですか？

政木館長

新しいものを購入するより安いというふうに見積もりがでています。

渡邊委員

その方が座りやすいということなののでしょうか？お話会においては椅子が一個あればいいわけであって、あれを二段重ねにしていつも紙芝居とか工夫しているんですけど、どうしても子供が突進してくるから実は危ないものなんです。本来は紙芝居用の台じゃないし、座ってお話会をするものでもないの、どういう方たちが利用しているのかなど。お子さんとお母さん方に関しては、直接座られるので、椅子に座るということはまずないんですけど。

政木館長

そこの図にもありますように、机と椅子はわかりますよね？

**渡邊委員**

新しいぶんになるのですか？机と椅子は。

**政木館長**

そうですね。これは購入するつもりです。

**渡邊委員**

それは有難いです。

**政木館長**

ですから、この真ん中のひし形みたいなのが6個合わさった形になっているのですけれども。

**渡邊委員**

今ある現存のものを張替えして、もう一回リサイクルして使いますということなのですか？

**政木館長**

はい。この形がなかなか珍しくて、実際の子供たちの使い方を見てみますと、座ってそこで本を読んでいる子もいれば、背もたれにしている子もいれば、床に座ってそれを机どしてその上に本をひろげて読んでいる子もいたり、いろんな使い方をしていきますので、ぜひとも昔の図書館のイメージも残っているのではないかとということで、こういう使い方も考えています。

**渡邊委員**

図書館の職員さんのご意見なののでしょうか？私たちはお話会の時にしか使わないのですが、とにかく普通に使うには危ないです。

**伊藤副館長**

日常的に便利に使っていただいていますので、家具の専門の方にご相談したのですが、これは非常に良くできていると。ただ汚い。天板もまわりのレザーも張り替えれば甦りますよということでアドバイスもいただきましたので。

**渡邊委員**

リニューアルするということですね。

**伊藤副館長**

はい、新しくなります。

**渡邊委員**

そっちのほうが費用的には安い？

**伊藤副館長**

買うよりは安い。

**渡邊委員**

けれど、子供の部屋には子供の部屋に合うものってあるじゃないですか。そういうところは全然考えずに、とりあえず今あるものをいかに上手に使うかってことなのですね。

**伊藤副館長**

これは是非残して使いたいなということです。



渡邊委員

残したいということですね。わかりました。あの、一番端っこにある机と椅子というのはお話会用の机と椅子という感じですか？

政木館長

そうです、はい。

渡邊委員

これは新しい？

政木館長

新しいものを予定しています。

渡邊委員

それと、つながりですみません。間仕切りになっているのを当初半透明のものなりでお願いしたと思うのですが、暗幕とかそのへんをご説明いただきたいのですが。

政木館長

はい。お話コーナーの部屋については移動間仕切り壁というふうに、これは西側だけ、左側だけにそういう文字が見えるのですが、北側、図面でいうと上の方についても、同じように、設計の図書をみると6枚扉で閉めたり開けたりするようになっていました。その扉については、中央部分がポリカーボネートの透明な板で作ってあるものですので、子供があたっても割れるような心配もなく安全なものだというふうに思っています。

渡邊委員

お話会の時はポリカーボネートでできている6枚の扉は閉めるけど、一般的には開放しておくことができるという仕組みなんですよ。

政木館長

そういう仕組みです。

大原会長

子供の声を外にもれるということはある程度ふせげるのですね。

政木館長

はい。これで普通の壁に近いようなものになると思います。

渡邊委員

上までであるという感じで。

政木館長

そうです。上まで扉があります。

渡邊委員

当初言っていました暗幕っていうのは、すみません、ちょっとこちらのところの外に面した、このエル字型にある

政木館長

暗幕については、間仕切壁の内側に暗幕を左側と両方に暗幕がつきます。それで、外に面したところには窓が2つつきますので、その窓には遮光カーテンがつきます。

渡邊委員

はい、わかりました。窓がついて遮光カーテンがつくのですね。

政木館長

この絵でいうと、右側と下側には窓と遮光カーテンがつきます。細長い窓なのですけれども。

渡邊委員

備品って後でつければいいものなので、基本的には、どちらがわからの出入りでお話会っていうあれになっていますか？当初、下足箱も何もないからそのまま出入りするようになりますよね。それに関連しては？

政木館長

そうですね。運用でやればいいと思うのですが、お話コーナーのちょうど上のところに紙芝居の紙芝居架というものがあるのですが、そちらのほうから出入りするのが出入りしやすいのではないかと考えています。

渡邊委員

開放感はあるのですが、逆にこれだけすると子供たちがどちらからも出入りしてしまうので、大変かなと。好きなところから入ってきますよね。

政木館長

それは実際のお話会が始まってから考えればいいのかと思います。

渡邊委員

ありがとうございます。いろいろとご配慮をいただいて。

大原会長

他にご質問はございませんか？一階について。

一般図書の開架スペース、開架の書籍、これは従来よりどのくらい増えるのですか？書架はだいぶ広くなりましたね。

政木館長

今までがだいたい一階で約8万冊置いていたのを13万冊ぐらいまでは置けるのではないかと。それは一般と児童を合わせて。

渡邊委員

3つのバリエーションの使い勝手がありますよっていうのと、2つのバリエーションのところの間仕切りになるものは、当初きちんとしたものでしてほしいと言ったつもりなんですけど。どういう形のものになるのでしょうか。ただのアコーディオンだと、やっぱりゆらゆらしちゃうし、音はもれるしというところで。通常は中に入るのが今主流ですよ。中に入っているのを出してくるというのが一般的な図書館の間仕切りですよ。

政木館長

こういう使い方を前提にしていますので、音が大きくもれるようなことはないと思っています。

大原会長

ということは二つ同時に開催できると。

政木館長

はい、それが前提です。

渡邊委員

では、大丈夫ですよ。間違ってもアコーディオンではない。

政木館長

アコーディオンカーテンではありません。

渡邊委員

普通今これだったら収まるじゃないですか。よその図書館も3枚ずつとか入るんですよ、1つのドアの中に。両サイドから3枚ずつの扉が出てきて一つの壁になるんですが、どうなんでしょう。

政木館長

この図のように扉を重ねて壁に折りたたむようになると思います。

大原会長

何かございませんでしょうか。

勝部委員

3つの例の一番上の172名、後ろ半分が椅子だけにしてあるけど、前も椅子にして入れるともっと入るけど椅子の数が172しかないということですか。

政木館長

はい、その試算もしております。前まで全て椅子にして座ると208名入ります。ということは、36の椅子をよそから持ってくれば、ここで入れるということですので、例えば研修室の3・4から持ってくるとかですね。あとは一階の研修室1・2というのがありますので、ここがもし使っていなければこれは12個、同じ椅子にするつもりですので、全て共通の机と椅子にしたいと思っています。使い回しができてこういう時には便利のかなと思います。

渡邊委員

椅子とかは購入されるのですか？

政木館長

もちろんその予定です。

勝部委員

これは前に話があって聞き落としたみたいですけど、美術館との兼ね合いで美術館主催の講演会みたいなものもここに入ってきたりするのですかね。

政木館長

はい、そういう予定になっております。

勝部委員

たとえば葉祥明なんかの時にはたくさんの方が集まられたりというようなこともありましたね。

政木館長

そうです、はい。

渡邊委員

なおさら椅子は希望します。今もう古いので。音がするのがかなりありますので。

政木館長

以前の椅子と机については全て、今全部ありませんので、購入するしかありません。

渡邊委員

やった。うれしいですね。良いものを購入してくださいね。

政本館長

いわゆる、こういうスタッピングチェアというのを考えていまして。先ほどの間仕切りなのですが、設計図書の中に遮音稼動間仕切り壁ということになっていますので、上にもレールがついています。

大原会長

それで1つお尋ねします。以前、県立図書館にしても、市立図書館にしても図書ですね、盗難が非常に頻発したことがあって、新聞なんかにも報じられたことがありました。その対策を県立図書館はやっているのですが、米子市立図書館ではどうなのでしょう。

政本館長

以前にも一度お話をさせていただいたのですが、今蔵書24万冊にICタグを貼っております。そのICタグを貼る目的の1つは、自動貸出機に対応ができること。もう1つは、出入り口のところにゲートをもうけておりまして、そのICタグを貼った図書を処理せずに持ち出すとブザーが鳴るということをしておりますので、盗難については、まず防げるのではないかと考えています。

大原会長

他にございませんでしょうか。

渡邊委員

二階のところ、間仕切りができるところの横、一番かどっこに、左側にボランティア室というものがありますよね。いわゆる私たち絵本の会とかそういう人たちが使える部屋という解釈でよろしいでしょうか。

政本館長

お話のボランティアさんや普段、図書の整備に来ておられるボランティアさんに使っていただく部屋というふうに考えております。

渡邊委員

長年使わせていただいでいて、小道具も増えたんですけど物が置けるスペースというのはないのでしょうか。

政本館長

今ボランティア室の図面を見ていただきますと、真ん中にテーブルを一台もうけておりまして、ここにも先ほど話した同じ椅子を6個、この部屋に置く予定にしています。その東側、図面でいうと右側なのですが、ちょっと幅の広いロッカーをここには置くようにしていますので、その中を使っただけならばというふうに考えています。

渡邊委員

ありがとうございます。すごく助かります。

大原会長

ボランティアさんは現在何人くらいですか？

伊藤副館長

登録は22名です。お話しだけでなく、製本のボランティアさんですとか美化のボラン

ティアさんを含めると30名近くになります。

大原会長

他に何かございませんでしょうか。

渡邊委員

前回話をしていた中に、これからITの時代だから Consent とか いろん ところに入れるというところはクリアしたのでしょうか。

政木館長

必要な部分については Consent も用意しております。

渡邊委員

ポランティア室の横にある、いろんな使い方ができるということも、ミニ講演とかミニお話し会にも使えますよという解釈でよろしいでしょうか。

政木館長

ここは移動式のスクリーンを持ってくれば、プロジェクターを使って映像も流せますし、いろいろな使い方ができると思います。

渡邊委員

多目的スペースのところですか。前回、立ち上がる前から言っておられた郷土の資料とかを置くスペースとしての場所という解釈でよろしいでしょうか。

政木館長

ここは多目的スペースですので、この中央に4つ置いているのは、いわゆるガラスケースの展示ケースを想定しています。ただし、ずいぶん高価なものですので、購入についてはもう少し検討をする必要があるのですが、ここには、たとえば、作家の自筆の原稿が入ったりとか、そういう使い方もできるかなと思います。

委員

一階にインターネットのコーナーがありますよね。2台で足りるのかなという思いもしています。

政木館長

一階ではなかなかスペースの関係上2台しか置けませんでしたので、二階に上がったところに、郷土資料の方に行くところにちょうど吹き抜けの右側に IT コーナーを、ここに4台もうけて、丸いテーブルに提案では変更したのですが、計画しております。

大原会長

・・・マイクロフィルムはどこで見るとですか？

政木館長

マイクロフィルムリーダーを女子トイレの上の方に、二階のサービスカウンターの上に入れる予定にしております。

大原会長

じっくり見ていただきまして、ご質問がありましたら。

渡邊委員

例えば、会議室の椅子の買い替えとか、子供のコーナーとかソファが置いてあったり、机や椅子が置いてあったりするのですが、実は図書館友の会で、この間斐川町の図書館の

見学に行きました。館長さんも同行していただいたので、お分かりかと思うのですが、お金があった時に建てられたからだと思うのですが、イギリスから輸入されたり、いたるところにこだわりがあって、子供のコーナーなどは特に子供向けのぞうさんがいたり、ぞうさんのいすがあったり、手作り感あふれるような、これだったら1日中ここで本を読んでも楽しいだろうとか、そこまでの贅沢は言わないにしても、そういう図書館にふさわしいものってあると思うんですね。大人のコーナーのところには、ゆったり座れるベンチがあったり、いたるところに憩える場所、ゆったりくつろいで本が読めるような畳の間もありました。そういうところで本を読むということは、私たちが安らいでゆったりできるなと思うので、図書館にあった、ふさわしいものっていうのを備品の中に、是非いろんな図書館を見学していただきたいなと思うんですね。安いからこれにしようとか、ちょっと懸念しましたのが、この間の県立図書館大会の時に、教育長さんが・・予算がある中で、削られるのは困ると思うんですね。当初くんだ予算の中で、良いものを、年数がかかっても、長い耐久性のあるもの、質のいいもの、ずっと使っていけるものっていうのを、くれぐれも皆さんで考えながら購入していただきたい。図書館にふさわしいものを置いていただきたいなと思います。よろしくお願いします。

#### 政木館長

斐川町立図書館、今は出雲市立斐川図書館ということなのですが、たしかに私も中を見まして、高級な家具が置いてあって、こだわりの図書館でした。なかなかあれと同じようにはいけないと思いますが、もちろん予算の範囲以内ということになります。渡邊委員がおっしゃったように、私も図書館にふさわしい家具等が必要だと思っていますので、それについてもどうにかできるように努力していきたいと思います。もう一つ、例えば児童開架スペースのところに、書架の一番はしがわに、クローバーの形をしたような小さな椅子なのですが、こういうのが児童用の可愛い仕組みといたしますか、くつろげる場所ではないかと思います。それから、お話コーナーにしても、紙芝居を置くところにしても、フローリングに両方しています。そのフローリングの上にはカーペットやラグとかを敷いて、いつでもとってやれるほうがいいのではないかと話をしているところです。

#### 渡邊委員

フローリングは絶対ですよね。アレルギーのお子さんもいらっしゃるし、私たちが行くといつもいろんなゴミがついて帰ってくるという感じです。ぜひ、フローリングで。

紙芝居のコーナーとか、斐川町の図書館は子供たちが喜ぶように置いているところが家になっていましたよね。子供の遊べる冒険の部屋という感じで、その中に本や紙芝居が置いてあって、すごくいっぱい工夫されていましたよね。大人のところはもちろん、長いゆったりベンチでしたね。おまけに畳の間もいいですね。すごいなと思います。

#### 政木館長

畳の部屋を設ける予定は今のところないのですが。

#### 渡邊委員

そこまではいいですけど。

#### 政木館長

ブラウジングコーナーは35名ここで座れるような椅子の数になっています。その奥に

行きますとベンチが、今のところは4人ずつ座れるのが4つ。それから書架の間には、いわゆるスツールという形の椅子も点在させております。以前に比べたらゆったりとくつろげる部分もあるというふうに思います。

**渡邊委員**

以前に外側のスペースに、今日高専の先生はお休みですけど、花回廊のところは高専の卒業生たちの椅子が、長いベンチが並んでますよね。すごい素敵ですよ。欲しいなと思うものがいっぱい・・手作りで。そういうのを、ぜひ卒業生たちのとかを図書館に来る間のところに置いてくださいという話をしたと思うのですが、また改めてあるといいなと思います。

**政木館長**

それは図書館の中ではなくて全体の構想の中で検討させていただきます。

**根平委員**

私も、一階のテラスのところは、外からは直接入れないように何かがあるんですよ。

**政木館長**

ここのテラスの外はアール状になったコンクリートの壁です。

**根平委員**

コンクリートで外から入れないということだけど、そこで本を読んだりされますよね。今の工事に入る前に、前の庭園あたりで木のところに置いてあるベンチで本を読んでいる人があって、ああいう雰囲気が全体で見られると、より身近に感じられたりするかなと。壁は壁でないといけないでしょうけど。

**政木館長**

ここから勝手に出入りされてもそれは困りますので。今、憩いの道のところはそのまま残りますし、藤棚とかありますよね。前側については大きな広場で残ると思うのですが。木陰が出来たら、そういうところも今後整備していきたいと思います。

**渡邊委員**

雪が降ったら大変なことになりますよね。上ないですよ。

**政木館長**

子供のテラスのところはありませんので、大変というか管理をする立場からすると大変だと。寒い時期はなかなか外に出る子はいないと思いますけど。

**大原会長**

他にございませんか？

**渡邊委員**

しっかり大人の部分のところをみんな使う気持ちになってどんどんどん・・・

**大原会長**

あとで気がつかれたら言っていただくということで次進めましょう。そうしますと、5番目の「リニューアルオープン後の図書館の利用時間等について」です。等とありますので、利用時間以外のことも含みまして、資料の一番最後に本館と他の図書館の違いという資料もありますので、色々今後の図書館のあり方についてご意見を承りたいと思います。では、説明願います。

## 政本館長

そういたしますと、資料の12ページ。資料ナンバーは8番です。鳥取県内の図書館、島根県内の、市の図書館ですね。それから人口が13万人から17万人の市に一つしかない単管の図書館を抱えている市の図書館について比較をしております。それぞれ見ていただきますとわかりますように、人口と図書館の面積、蔵書数、一人あたりの冊数、年間貸し出し冊数、開館時間と休館日、もう一つは職員数ということで、これは日本の図書館という本と図書館年鑑という本、それから鳥取県の図書館統計というのから引っ張ってきておりますので、実態とは多少違う部分もあるかもしれませんが、公表されている数値です。この中で、浜田市の市立浜田図書館というのが、床面積が686ということなんです、平成25年の春に向けて新築工事をしておられて、約2900㎡くらいだったでしょうか、の図書館としてオープンされる予定と聞いています。米子市立図書館の1969というのは古い図書館の面積で、これが増改築後は2925㎡に来年にはなりますということです。それで今お手元にお配りしていますアンケート用紙があると思うのですが、来館された利用者の方に開館時間についてのアンケート調査を一ヶ月間やってみようということで、11月の10日から始めました。最終結果ではないのですが、中間報告として25日までの結果をとりましたところ、121名の方に回答をいただきまして、「このままでよい」という方が31名。「変えた方がよい」というの内「9時から18時まで」が38名。「10時から19時まで」が11人。「9時から19時まで」が29人。その他はばらばらなので、12名ありました。こういう言い方が適切かどうかは分からないのですが、このままでいいという方の中には、時間を延長すると経費がかかるでしょうから、このままでいいという書かれた方がたくさんありました。12月の9日までアンケートをとってみて今後の参考とさせていただきたいのですが、このあたりについて、委員の皆様方からご意見を頂戴できればというふうに考えております。

## 大原会長

そうしますと、資料の8をご覧くださいますと、いろいろな問題点が、米子市立図書館につきましても、増改築前の資料、いわゆる23年度の資料ですか。

## 政本館長

23年度に発行されていますので、数字的には22年度の数字が反映されているかなと思っています。

## 大原会長

米子の市立図書館ができましたのが、平成2年。それから、図書館そのものが建ちましたのが昭和53年。県立米子図書館として建築されたと。当時、米子市の人口は13万人。現在は15万人。その間、図書館というものが市立図書館になりまして、当初ふなこしげんしろう先生が社会教育委員長で、そこで市立図書館に移行する時の図書館像というものが発表されているんですね。それによりまして、その後24年間の米子市の図書館のあり方が記載されている。その通りに進んできたなというふうに私は思っております。まず、情報化になってきた、それに対応する。それから、生涯教育の拠点であるということが盛んに言われだしました。それから、情報の拠点であるとかですね、現在は知の拠点であるとか、利用者が非常に増えてきましたし、といいますのも、精神的な栄養といいますかね、



図書というのは、生活のためには経済、お金があると、それだけじゃいけない。精神的な栄養剤としては図書、そういうふうには世の中進んできております。その中で、資料を見ても分かりますように、 $\cdot\cdot$ のべ床面積、米子市立図書館は1969という数字がでています。鳥取市立に比べますと約2/5といえると思います。倉吉にくらべますと2/3ですか。というふうに、倉吉や鳥取に比べて床面積が少ない、ということがこれまで大きな問題であった。そのために、蔵書数は増えることはない。一定の冊数が入ります。それ以上に書庫が満杯で増やすことができない。ですから、市民に還元するというようなかたちで、その書庫を広くする、あるいは書庫間が狭くてすれ違いうことができない、あるいは、車椅子で通れないということ解消しなければいけないというようなことで、今の増改築になったと。できたら新築が一番良いわけですけど、当時合併前、財政難で破綻する直前まできておりましたので、増改築というのがええところだったかなと私は思っております。そういう面で増改築 $\cdot\cdot$ まして、狭い図書館を広くしたという点では非常に嬉しいかぎりです。ただし、その他を見ても、冊数が人口一人あたり1.7と、1.7冊、鳥取が2.8冊、倉吉が4.3冊、境港にいたっても3.9冊。1.7冊以下のところはおおさき市というくらいところで、あとはみんな多いわけですね。ということは図書購入費が少ない、結局、図書館費というものが全体的に低いわけですね。そういう意識が低い、米子市は。だから、これまで市立になって20なん年になるわけですけど、ずっと図書費を増やすような、とくに図書購入費を増やす途中で合併や $\cdot\cdot$ 2千万円あったのですが、1300万円ぐらいに $\cdot\cdot$ 何年かありまして、そういうところを常に言い続けて今回復さしてもらっております。これはありがたいことです。もう一つは、職員数、一番最後のところ。米子市立図書館は14と。ところが、鳥取市は29、倉吉は19。というふうですね、ざっとみましても、米子市立図書館は人数が少ない。私は少ないということについてこう考えておりました。こういう意見を申し上げてきたと思います。日常的な書架整理をする人が、人手が足りない、その結果が今ボランティアに頼りまして、20人30人という人の力を借りてやっとなのが今やっとなです。それから、学校支援というのも米子市立図書館は盛んに、全国一の規模で支援をしておるわけです。支援をするというのは公民館であるとか、これが公立図書館の使命としてやらなければいけない。それをやっているわけです。だから、学校のほうはまだまだ図書館の利用が足りないわけですし、さらに支援をしなければいけないと。支援のためにもっと人手がいるわけです。それから、レファレンスというのも増えてきています。私はいろいろ聞いてみたいことが山ほどありまして、また明日ごろ大野さんに相談しようかなと思っているところもあるんですけど。いちいちこれも、私も2ヶ月、図書館に勤めたことがありまして、このレファレンスにかかりますと、時間がどれだけあってもたらない。私も以前 $\cdot\cdot$ 図書館に行きまして、あることを尋ねましたが、わざわざ図書館の館員の方が、図書館の人が車に乗って、私の車を先導しながらずっと案内していただいて。そういうサービスまでしていただいた。レファレンスはものすごい労力がある。というようなことでですね、ネットワーク化によって他の図書館との貸し借りという作業が非常に多くなっている。ぜひ人手を多くして、特に面積が1.5倍になるわけです。面積が広がるということは、人がおらんことにはいけませんので、そういうことも考慮して、スペースだけが広がって、私も満足しておりますけども、人手を入れて、米子市立図書

館が人を中心にして、回転しておると、良い図書館だと、米子市というのは文化都市で、図書館は米子の文化の拠点だと自慢をできるような人員配置これもしてほしい、ということをもまず申し上げてお願いしたいと思います。

#### 渡邊委員

私も人は増やしてほしい。付け加えて、分館は将来必要だと思います。鳥取を見ても3、倉吉を見ても2、出雲市に関してはこないだお伺いしたときに6あるんですね。もう一つ図書館があったら、こんなに市民の皆さんに迷惑をかけることなく、市民のみなさん、もっと図書館を上手に利用できていると思うんですけど、分館が本当にあったらいいなと強く切望したいと思います。

#### 大原会長

関連しましてですね、米子市の中心図書館はこれで立派になっていくと思います。ただ、渡邊委員も仰いましたように、分館、今後、米子市立図書館の進んでいく方向としては、本館というのは何年かこのままでいくと思います。その間、どうしていけばいいかという、やっぱり分館を充実していく。今後の方向というのはそこにあるのではないかと思います。まずは、淀江だとか、南部とか弓浜とか、そういうところ、いろいろ考えられまして、たとえば、公民館を拠点にして分館を整備するという方法もありますし、私もこの夏、医大に入院しております、医大の図書館というのを利用させていただいて、やっぱり小さいながら充実しておるんですね。感心しました。そしてだいたい利用させていただきまして、そういうものを細かく整備して、中央の図書館になるわけですから、ここへ来られない人もあると思います。今後はそういう分館という視点で、今後は、リニューアルオープン後は、そういう方向に進んでいただきたいというふうに思っております。

#### 政木館長

職員のことについてですが、今、増員をお願いする方向で協議をしておりますので、今後も頑張りたいというふうに私は思っております。

#### 大原会長

でもですね、この予算の都合、正職員が4人だと。嘱託は2人。臨時が4人。こういうことで本当に図書館も広くなる、機能を十分発揮できるのかと私はこれが疑問です。しかも、市の正式な職員ではなくて、ほとんどの方が、教育文化事業団という……。非常に待遇も悪いわけです。それを含めまして、そういう待遇の充実、正職員を増やすように努力していただきたいと思います。

#### 大原会長

それから、時間につきましては、利用する立場から言えば時間は長い方が良いわけで、9時から19時、というのができるならば、これはのぞましいなと思います。

#### 政木館長

他の委員さんのご意見はいかがでしょうか。

#### 委員

私もこの資料をいただいて見させていただいたときに、和田とか富益とか、あるいは南部方面とか、淀江とか、仕事が終わってから来ようと思うと、17時にさっと終われないところもあって、雪道とかになるともっと時間がかかると。そうすると、今の18時だと、

借りて帰るだけだとできますよね。19時でも借りて帰る、そこで何か調べようと思うとちょっと時間が無理かなという気がして。先ほど聞いた、始まりは10時と9時が違うんですけど、終わりの19時の両方を足すと40ということで、そういうところも読み取ると、本を借りたり、そこで調べたりというようなことができやすいかなと、聞かせていただいたり、資料を読ませてもらったり。

政木館長

ありがとうございます。

渡邊委員

職員さんの負担ってかなり大変なことになるわけですよね。

大原会長

そのぶんは増やす。

渡邊委員

増やすってことですね。そうですね。

根平委員

今まで10時から18時で1時間ずつ前後取ったときに、どれだけの人件費が必要なのか。

政木館長

そうですね。今は朝9時半～18時半までの勤務で、前後30分ずつの余裕をみて開館しているわけですが、9時から19時ということになれば、交替制をとらざるをえなくなります。ですから、交替制をとってですね、土日祝日には、普段やっていない、平日やっている業務、たとえば、選書とか発注とか、学校とのやり取りとか、そういうことがなくなりますので、土日に関してはまた人数を減らすとか、時間を、この例でも、たとえば鳥取市立図書館にしても、土日祝日は17時まででやっておられます。同じところが他に調べてもありましたので、参考になるのかなと今考えています。

大原会長

せっかく立派になる図書館が、時間が短いようではいけないのではないかと。やはり、人を増やしながらか、時間を増やしながらか、市民の図書館だというふうに着ていきたいですね。

渡邊委員

実際には来年夏頃っていうのは、目処は全然たっていないのですか。

政木館長

一応、8月という。

渡邊委員

夏休み期間中。

政木館長

期間中にオープンできるように、今努力をしているところです。

大原会長

ご意見は何かございませんでしょうか。

灘尾委員

時間帯は長い方がいいと思うのですが、冬と夏を二期に分けて、夏は20時とかでもまだ明るいですが、冬は18時でもうまっくらで、もちろん勤めの帰りにでも寄るとい  
う方法もあるのですけど。

大原会長

そういうことも考えてみたらいいですね。

勝部委員

本の学校ですが、平日でも夜でも人がたくさん入っていますよね。椅子が置いてあって  
そこで読んだりできるようになっているけど、けっこう、本を買って帰られる人もたくさ  
んおられて、ああいうのを見るとガラッと変わったくらいの図書館になるので、ぜひいま  
でに来られていない方にも足を運んでもらうっていうね。このアンケートの今の数値を教  
えていただいたのですが、決まった今の時間帯に来ている方のアンケートですので、来  
られていない方に聞くのもまた大変だけど、ちょっとそのへんがどうなのか。新たな開拓  
を。

政木館長

今勝部委員さんがおっしゃったことは、我々もそういう分析を実はしておりました。今  
来ておられる方だけのこれは意見なんだろうなということだと思っています。

大原会長

私も言われたことがありますけど、9時半頃行ったら開いとらん、けしからんと言われ  
ましたけど。

政木館長

皆様のご意見をまた参考にしながら、これからこの開館時間についても、つめをしてい  
きたいと思います。

渡邊委員

このまま建つまでじゃなくて、協議会だいたい次はいつぐらいに開催予定なものでしょ  
うか。長い間なかったじゃないですか。

政木館長

早く開催すべきでしたが、引越しをしてみたら思った以上にみんな忙しくて、建築工事  
もどんどん進んだり、いろんな打ち合わせがあったりですね。次回の協議会については、  
できたら1月に開催できたらなというふうに考えています。ただ、そのときの議題につい  
て、予算が決まっているわけでもなく、運営の方向についてだけみたいなかたちになるか  
もしれません。それについては会長さんと相談をさせていただきながら開催については考  
えていきたいと思います。

大原会長

今年度は1500万円、図書購入費。来年はそうではないように、そのへんも頑張って  
ください。

政木館長

はい。生涯学習課課長さんもおられますので、私もよろしくお願ひするよう言っておき  
ます。

大原会長

この表を見る限りでは、一人あたり1.7冊ですからね。金額にすればなんぼですか。

根平委員

ともすれば、次世代を担ういろんなこともされると思うので、予算措置は十分にしている  
ただかないと、強引にしていただけたらと思います。

大原会長

今年度はいけませんでしたので、来年度はぜひ図書費全体を1億は確保する。

政木館長

ここで私がお約束することはできませんけども、予算を確保できるように努力をしてい  
きたいと思います。

渡邊委員

全体的に空調の設備は良くなるんですね。なんか今も・空気がどんよりしていました  
よね。

政木館長

そうですね。ご質問がなかったので触れませんでした。実はこういう空調のことも、  
初めの設計図におとしてあったのでしょうか。我々におりてくるのは今の時期みたい  
な時に、空調の図面ができたので、これでいきたいと思います、ということで、ちょうど  
2週間くらい前にそういう話がありました。全て天井のほうにエアコンがついていまして、  
たとえばお話コーナーだけで区切ってそこだけエアコンをかけることもできます。

渡邊委員

素晴らしい。すごいですね。

政木館長

ちょうど西日があたって暑いときもあったりとか、冬場は寒かったりとかしますので、  
わりとそのへんは融通をきかせてできるのではないかと考えています。

根平委員

太陽光の発電なんかは。

政木館長

太陽光の発電は当初の実施設計の時には計画に載っていたのですが、ちょっと小さいも  
のでしたので、これからはおとしました。

大原会長

他にございませんか。だいたいご意見も出たのではないのでしょうか。それでは、いろい  
ろお願いしましたが、これで閉会したいと思います。皆さん、ご苦労様でした。

政木館長

どうもありがとうございました。